

2 Ja-7 住宅居間における装備的要因に関する調査研究

○竹原広実 (奈良女大) 久保博子 (奈良女子) 井上容子 (奈良女子)
磯田憲生 (奈良女大) 梁瀬度子 (奈良女大)

目的) 居間における装備的要因が心理的にどのような影響を及ぼしているかということが、筆者らの実験室実験の結果より明らかになりつつある。そこで実際の住宅における装備的要因の実態を把握するとともに、実験の結果との対応を検討するために調査を行った。調査は装備的要因に対する意識調査を行い、居間のインテリアに対する満足度と関連のある要因を検討した。また、インテリアに対する満足度と実際に居間に使用されている色彩との関連を知るために、調査対象の住宅を訪問し実測調査を行った。

方法) 調査は対象住戸の147戸を訪問し、意識調査と実測調査を同時に行った。意識調査はアンケート用紙を作成し、留め置き自記法により行った。調査期間は1995年6月。意識調査の内容はインテリアに対する満足度と、居住者の属性、住宅および居間の形態及びインテリアに対する考え方といった要因との関連性を調べた。実測調査は調査対象住宅の居間の装備的要因の色彩を色差輝度計を用いて測定した。

結果) 意識調査ではカイ二乗検定の結果より、調査対象者の属性では年齢、職業が、またインテリアに対する意識では関心の高さ、居間の色彩の満足度などの項目がインテリアの満足度と関連があるという結果が得られた。実測調査では、壁、床、収納、テーブルでは用いられている色彩がかなり限定されており、それに対してソファ、クッション、カーテンでは比較的多くの種類の色彩が用いられている。